



## 『我が道を問ふ剣道の教え』

北海道

千歳明德館

中学3年

大 沼 弘太郎

「剣は心なり 心正しからざれば 剣又正しからず」今、僕は感謝の気持ちで一杯です。なぜなら、こうしてこの場に立ち、自分の気持ちを伝える機会を与えて頂いたからです。実は、僕は人と話すことが苦手です。自分から話しかけるのも苦手、友達から話しかけられても、なかなか話をつなげられません。どう話したら良いだろう、何を話せば良いだろう。どう続けたら、と考えすぎてしまうからです。

ですから、人前に出て発表するなんて言うのは、僕にとっては夢のまた夢の事だったのです。

今回、体験発表の件で声をかけて頂いた時、

「やります！」と答えたものの、段々と事の重みを感じ、すぐに後悔し始めました。やってみたいけれど、高校の受験勉強や他の習い事で忙しいし、人前で発表するのも恥ずかしい。でも、今更何と言って断ったらいいだろうか。「お前は、『やります!』と言っただろう」と言われたら、それに対してどう答えたら良いのだろう。と、僕の頭の中で言い訳と不安だけが、日に日に立派に成長していきました。

剣道の試合でもこのような事が起きます。竹刀を構えた時、こう打ったらこう返されるかもしれない。こう出たらこう来るかもしれない。そう思うと身動きが取れなくなり、居着いてしまいます。

結局、踏み込みが甘く、打ちにいった竹刀も中途半端になり、打たれてしまいます。「驚・懼・疑・惑」相手の動きに驚き、恐れ、疑い、迷う。これは剣道で言われる四つの病気です。

「感覚で動け。」「分かっている。」頭では分かっているけれど、その一歩が踏み出せない。「切り結ぶ 太刀の下ぞ 地獄なれど 身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」打たれるかもしれないけれど、自分の身を投じる覚悟で打つ!ということは分かっているのですが…。

「体験発表は、受験勉強では得られない貴重な体験になるよ。」と、父に背中を押され、たとえ失敗しても勇気の一步を踏み出すべきだと感じ、決心しました。

僕は今、行動する勇気を自分のものにしつつあります。

感じるのも自分、動くのも自分。今、向かい討つべき相手は僕自身と考えています。考え過ぎず、平常心で攻め、相手の心を動かして打つ。そのための一步を当たり前のように出来れば、剣道の試合でも有利になることが多くなるはずです。

物事に対する姿勢や考え方にも確かな手応えを感じ、自信につなげていけるに違いありません。冷静に物事に対応できる心を磨いていくことが大切だと思っています。

僕が剣道に出会ったのは小学六年生の時でした。剣道とは何かを全く知らなかった僕が剣道を始めたきっかけは、担任の先生がやっていて格好良かったからです。

今思えば、剣道を習い始めたことは最良の選択でした。技術を学べることは勿論ですが、心と身体を磨き、鍛えることが出来るからです。



仲間と共に汗を流し、体力向上のための努力をしていく中で、人として大切な礼儀作法を会得できるからです。

「今まで心正しく剣道を学んで来たか？」そう問われると「はい」とは言えません。高校に進んでからはどのような形で剣道に関わっていくかもまだ決めていません。

でも、より豊かで有意義な人生にするため、剣道を人生の支えとして続けていきます。

心正しく、真剣に稽古に励み、今まで身につけていなかった感謝の心や忍耐力、努力を修得していきます。そして、「さすが剣道をやっている人は違う」と思われるように自信を持って前を向いて歩いていきます。

堂々たる剣士を目指して！